



【学校教育目標】

《 自分の良さを発揮しながら、たくましく生き抜くことができる  
ふるさと大好き 秋穂っ子の育成 》

## 短くとも充実した夏休みに

校長 村田 利 樹

延長された1学期が今日で終了しました。

終業式では、短くとも充実した夏休みになるようにと、家庭での生活、地域での生活、交通安全、熱中症・感染症対策などについて話をしました。16日間の短い夏休みです。一日一日を大切に。

学校では、1, 2年教室と特別支援教室には正規のエアコンが、3, 4, 5, 6年教室には代替のエアコンも整備できましたので、お盆明けに2学期が始まっても快適に学習することができるでしょう。(3~6年の正規エアコン、理科室、図工室、家庭科室、多目的室などの特別教室は工事継続中です。)

ただ、登下校での熱中症対策については、十分にご配慮ください。放熱効果のあるタオルや日傘の利用も可能です。水分補給用の水筒は、お茶・水のほかにスポーツドリンクも可としています。当面の間、必ず持たせてください。

### 秋穂っ子のあいさつ：子どもたちへのアンケート調査をしました

コロナ禍で、大きな声を出すこともはばかれるところですが、あいさつはきちんとできる秋穂っ子になってほしいと思っています。「あいさつ」を重点目標に掲げて3年目、集大成の年と考えています。

**アンケート内容** 全学年同じ質問です(低学年向けによりみがな付き)。調査人数は133人(欠席2名)です。

- 1 おうちの人に「おはよう」や「おやすみ」をきちんと言っている。
- 2 朝、家を出るとき、学校や遊びから家に帰ったとき「いってきます」や「ただいま」と、きちんとおうちの人にあいさつをしている。
- 3 途中で出会った地域の人や見守りの人に「おはようございます」や「こんにちは」「さようなら」のあいさつをしている。
- 4 あいさつをするとき、相手の人の顔(目)を見てしている。
- 5 朝、校門で校長先生に元気なあいさつをしている。  
(※元気な…大きな声でなくても、口を開けてはっきりと「おはようございます」と言うこと)
- 6 いっしょに立ってくださるおまわりさんにもきちんとあいさつをしている。
- 7 校長先生やおまわりさんの顔(目)を見てあいさつしている。
- 8 ろうかで先生や学校に来られたお客さまに出会ったときに「えしゃく」をしている。
- 9 授業の始めと終わり、「おねがいします」と「ありがとうございました」のあいさつをはっきりと言っている。

回答は、以下の4択としました。

- ◎「いつもできている(できない日はほとんどない)」 ○「だいたいできている(できない日もたまにある)」  
△「あまりできていない(できる日もたまにある)」 ×「いつもできていない(できる日はほとんどない)」

### 集計結果 全校の集計で「いつもできている」「だいたいできている」の割合で見たとき

【9割超】

- |   |                           |       |      |
|---|---------------------------|-------|------|
| 2 | おうちでの「いってきます」「ただいま」       | 94.7% | 126人 |
| 9 | 授業の「おねがいします」「ありがとうございました」 | 91.7% | 122人 |

【8割超9割未満】

- |   |                   |       |      |
|---|-------------------|-------|------|
| 1 | おうちでの「おはよう」「おやすみ」 | 88.7% | 118人 |
| 3 | 地域の人へのあいさつ        | 85.7% | 114人 |
| 6 | おまわりさんにもあいさつ      | 88.0% | 117人 |
| 8 | 校内でのえしゃく          | 82.7% | 110人 |



## 【8割未満】

4	地域の人の顔（目）を見てあいさつ	73.7%	98人
5	「元気な」あいさつ	77.4%	103人
7	校長先生やおまわりさんの顔（目）を見てあいさつ	77.4%	102人



## 集計結果から考察

- ①家庭での「いってきます」「ただいま」がいちばん自己評価が高いのがわかります。ただ、10人未満ですが、「あまりできない」「いつもできない」という子どもがいます。
- ②授業の「おねがいします」「ありがとうございました」も9割を超えます。みんなが声をそろえるので言いやすいのでしょうか。しかし、10人超、みんなの声にまぎれてしていない子どもがいます。
- ③おうちでの「おはよう」「おやすみ」は100%いくであろうと思っておりましたが、15人ほど「あまりできない」「いつもできない」という子どもがいます。
- ④「地域の人へのあいさつ」「おまわりさんにもあいさつ」は予想していた以上に、子どもたちの自己評価が高い項目でした。正直なところ実態とは少し差があるような気がします。
- ⑤一番評価が低かったのが「顔（目）を見てあいさつ」でした。実に30人以上のこどもが「あまりできない」「いつもできない」と自己評価しています。うち、ほとんどが3年生、4年生、5年生、6年生です。
- ⑥「元気なあいさつ」も8割近い評価です。マスク越しでも口が開いているかどうかは確認できます。口が開いていない子どものあいさつは元気のない印象です。歌を歌うときに「口を開けて」というのと同じです。
- ⑦調査全体では、学年別、男女別に少し差が見られました。気になるのは学年が上がるにしたがって、「あまりできない」「いつもできない」の割合が高くなることでした。

6月の第2週あたりに採ったアンケートですが、その頃から比べて変わってきたことがあります。よい点です。

- ①校内でえしゃくをする人が増えてきました。「サイレントゾーン」の成果でしょうか。
- ②顔（目）を見てあいさつできる人が少し増えてきたと感じます。ただ、変化のない子は変化なしです。

今年度も、毎朝子どもたちのあいさつの様子を見ていますが、こちらの声かけにもあいさつが返ってこない場面もいくつか見られ、子どもたちの意識調査と自己評価を採ってみた次第です。

もちろん子どもたちの中には、遠くからでも元気な声であいさつをしてくれる子、ていねいなお辞儀をしながらあいさつをしてくれる子、目を見てあいさつができる子、とみんなのお手本になれる子が何人もいることは事実です。また、登校班の班長さんが元気なあいさつをする班は、みんなが元気なあいさつをしている、と感じることが多いです。

このアンケートが意識付けとなって、えしゃくや顔（目）を見る変化が現れたのならば、もう一息でしょう。あいさつをすることの良さや意義は学校でも機会をとらえて指導しています。朝晩のあいさつも含め、学校の行き帰りや地域の中で子どもたちのあいさつについて、この夏休みを機会にふりかえてみられてはいかがでしょうか。

## 秋穂小サイレントゾーン：1学期に取り組んだ「新しい生活様式」

新しく取り組んだことの一つに、この「サイレントゾーン」があります。

「熱中症予防のためのマスクの約束」でもお知らせしているとおり、「昇降口やろうかとはサイレントゾーン」として、無言で移動することでマスクを外すことができる場所であり、少しでも夏場のマスク着用の暑苦しさから逃れ、熱中症を予防しようとするものです。

（マスクを外すことは強制ではありません。ご家庭での指導や子どもの判断によります。）

無言で行動するのでコロナの飛沫感染防止にも役立ちます。

まだまだ定着はしていませんので、2学期以降も根気強く指導してまいります。これも「新しい生活様式」「秋穂小の新しいスタンダード」となるものです。

子どもたちへの意識付けのために廊下のセンターラインや階段のつきあたりに貼っています



## 学校行事についてのお知らせ

8月、9月の主な学校行事は、7月1日発行号をご覧ください。（秋穂小HPでも閲覧可能）

9月27日予定の「友愛セール」は中止となりましたことをお知らせします。（日曜参観日は実施します。）